

編集後記

今年の冬は首都圏に二度の大雪を降らせ、大きな被害をもたらしました。また、首都圏を中心とした交通網も長期間にわたって滞り、生鮮で取り扱われる水産物や農産物等の流通にも影響を与えました。被害に遭われた皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

さて今号では、日本海区水産研究所で行っている研究開発の成果と進捗をご紹介します。アカモクは、昔から日本海沿岸で食用とされてきましたが、その利用は地域限定的でした。近年、機能性食品として海藻が注目されるようになり、徐々に全国で流通するようになりましたが、まだまだ知名度は低いようです。今回の意識調査を受け、さらなる展開が期待されます。サイドスキャンソナーは聞き慣れない言葉ですが、魚探と同じように音波で海の中を探る機器です。今回の成果は、これを用いた海底の探索により、魚介類の死亡原因の一つである放置・逸失漁具等による資源への影響が把握できる可能性を示したものです。日本海海況予測システム（JADE）は2008年に日本海区水産研究所等により開発され、漁海況や大型クラゲの移動予測などに役立っています。今回ご紹介したJADE 2はJADEを改良し、より広い範囲での高精度な予測を可能にするものです。来年度には皆様に利用していただけるよう鋭意開発しておりますので、完成を楽しみにお待ちしております。

（日本海区水産研究所業務推進課長）

発行：独立行政法人水産総合研究センター

編集：独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所
〒951-8121 新潟市中央区水道町1-5939-22
電話：025-228-0451(代) FAX：025-224-0950
<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>